



# あ ま ぶ ま

校長先生の“雑感” .....	1
祝インターハイ出場 .....	2
校章のナゾ? .....	3
部活動紹介 .....	4 ~ 6
努力のキセキ .....	7
部活動の裏方さん .....	8
探検ーりんどう会館ー .....	9・10
気になる! ガクメシ事情 ...	11・12
PTA 会長のつぶやき ほか ...	13 ~ 15

題字：萩原 盛和先生

# 不自由の すすめ

校長  
安田 徹



ぎっくり腰、アキレス腱断裂、そして痛風発作。これらの共通点は激痛と、一定期間不自由な生活を強いられること。ギブスと腫れと痛みが私から自由を奪う。寝返りも打てない長い夜、床を這ってのトイレなど。思うようにいかず、イライラが募るばかり。ただ我慢するしかないのだが、これが長く続くと、何とか快適にしようと思えこれ

工夫を始める。

私たちはアクシデントがあり、普段の生活ができないと不自由を感じるが、『のど元過ぎれば』ですぐ忘れ、この便利な世の中を謳歌している。実にいい時代だ。でも、一方で、この快適さ故に失ったものもある。それは、「我慢すること」と「自分で工夫すること」。高校生にとって、もしかすると、学校は

不自由な場所かもしれない。が、この不自由さから逃げないで欲しい。やがて、自分の思い通りにいかない社会に出た時、この経験が必ず生きてくる。

ギブスを外した時の爽快感、痛みを伴うことなく部位が自由に可動した時の安堵感、何とも言えない。あの痛みと不自由こそが、今の私を作っていると思う。

# インターハイ出場おめでとう!



陸上部  
3年 加藤 大地

第72回東北高等学校陸上競技大会  
棒高跳 第6位 4m30cm  
平成29年度全国高等学校総合体育大会  
棒高跳出場

私にとって全国大会とは中学の頃からの憧れであり目標とする舞台でした。1年生の時は記録が伸びず、苦しい思いをしました。2年生になってから4m20cmの跳躍に成功し、自分の可能性を再認識することができました。3年生の時に4m30cmの跳躍ができ全国大会に出場することができました。全国大会の選手はともレベルが高いものですが、自分が目指した最高の舞台での跳躍ができたので悔いはありませんでした。私は大学に進学した後も陸上を続け、より一層高みを目指し頑張りたいと思います。



陸上部  
3年 大橋 愛夢

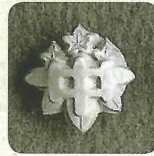
第72回東北高等学校陸上競技大会ハンマー投出場  
(昨年第10回日本ユース陸上競技選手権大会 出場)

私は、高校に入学してからハンマー投を始めました。1年生の時に目標としていた東北大会に初めて出場しました。緊張、不安で自分の思う通りの投げが出来ず最悪な結果でしたが、私に足りないことや、県大会とは違う空気のみ込まれないようにする事など、大会での課題をノートにまとめて一つ一つクリアできるようにしてきました。その後の大会は全て東北大会に出場できましたが、東北大会から上の大会にはなかなかいけず逃げだしたくなる時もありました。そんな時、顧問の先生に「いくら技術があつたって気持ちが悪くたり負けてたら勝てるわけがない」と言われ、それから気持ちをしっかり持ち大会に望むようになり、2年生の夏に全国大会のキップを手に入れることができました。

自分一人では何もできませんが、たくさんの人に支えられてここまでやってこれたと、陸上競技を通して学びました。

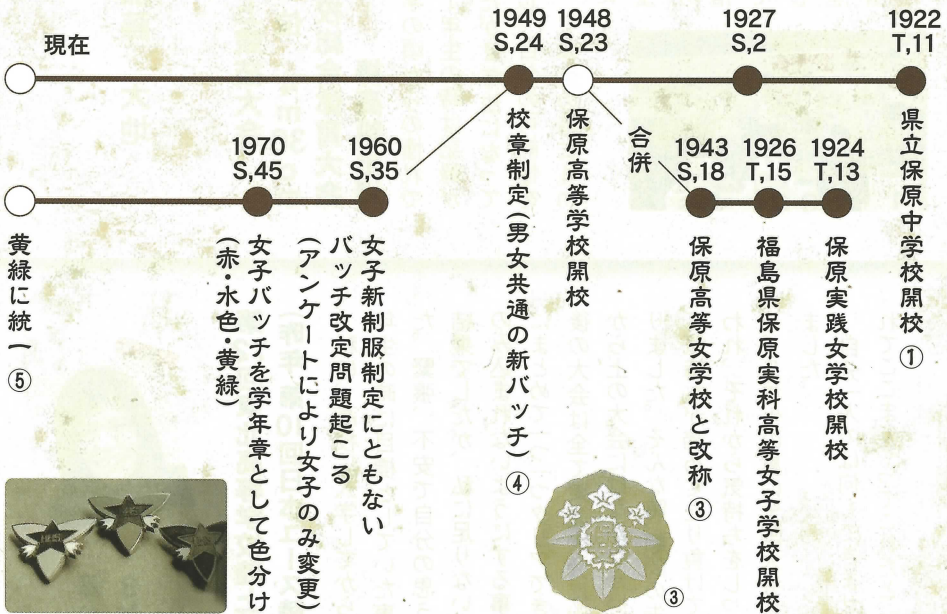
# 校章のナゾ

保原高校の校章は、「笹りんどう」なのに、男子と女子で形が違うこと、みなさんは知っていましたか？  
なぜ2つの校章があるのか、歴史を逆のぼって謎を追ってみました。



②  
帽章改定  
②

①  
帽章



長い歴史の中で、その時代時代の先輩方の、学校に対する愛着の気持ちがあり、校章がかわってきた事がわかった。時には、授業をボイコットするほどの校章への熱い思いがあったようだ。

あと数年で100周年を迎える本校。これからの保高生は、愛校心を、どんな形で表すのか、見守っていきたい。

## 参考資料

- ・笹りんどうとともに - 50年の歩み -
- ・写真で綴る七十年 仰ぐは霊山